

2018/03/09(金)08:24

| | | | |
|--------------------------------------|---|-----------------------------|----|
| 科目名称 Course title(Japanese) | アントレプレナーシップ入門 | | |
| 科目名称(英語) Course title(English) | Introduction to Entrepreneurship | | |
| 授業名称 Class name | アントレプレナーシップ入門(旧:アントレプレナーシップ概論) | | |
| 教員名 Instructor | 牧野 恵美 | | |
| 開講年度学期 Year/Semester | 2018年度 前期 | | |
| 曜日時限 Class hours | 月曜3限 | | |
| 開講学科 Department | 経営学部 経営学科 | | |
| 単位 Course credit | 2.0 | 学年 Grade | 1年 |
| 科目区分 Course category | 関連専門基礎 | 履修形態 Compulsory/Elective | 必修 |
| 概要 Descriptions | 競争が激しいグローバル社会では、分野や職種に限らず、アントレプレナーシップを発揮できる人財が求められています。経営学を学ぶために入学した理科大経営学部生にとって、アントレプレナーシップは馴染みのない概念かもしれません。アントレプレナーシップは日本語で「起業」と呼ばれることが多いのですが、必ずしも新規ビジネスを立ち上げることだけを指すわけではありません。本講義は、グループワーク、演習、DVD学習などを通じて、アントレプレナーシップを身近なものにとらえます。 | | |
| 目的 Objectives | アントレプレナーシップについて履修生が自らの価値観や志に照らし合わせて考察することを目的としています。 | | |
| 到達目標 Goals | 1) グループで議論する能力をつける 2) アイデアを出して、提案できる 3) アントレプレナーシップについて自分の言葉で説明できる 4) 自分の強みを認識できる 5) 起業家の思考・行動プロセスを説明できる | | |
| 履修上の注意 Course notes prerequisites | 本講義はグループワークをはじめとした演習が多いため、出席と積極的な参加を重視します。従って、授業にただ出席しているだけでは、貢献とはみなさず、状況によっては貢献点を大幅に減点することもありますのでご注意ください。 また、一部、キャンパス外でのフィールドワークへの参加が求められます。4回以上の欠席は、原則として不可(D評価)とします。 | | |
| 準備学習・復習 Preparation and review | ほぼ毎週、事前課題を設定しているため、週1時間程度の準備学習が必要です | | |
| 成績評価方法 Performance grading policy | 授業への貢献 40% 事前・事後課題・小テスト 30% 美術館レポート 10% 期末テスト 20% 以下の(1)(2)の条件を全て満たす学生は、単位取得不合格(D評価)の場合、再試験を受験することができる。 (1)総合得点が50点以上であること。 (2)講義への出席率が80%以上であること。なお、開始20分以内にカードリーダーで手続きした者のみ「出席」扱いとする。 | | |
| | S: 到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている A: 到達目標を十分に達成している | | |

| | |
|--|--|
| 成績評価基準 Performance grading criteria | B:到達目標を達成している C:到達目標を最低限達成している D:到達目標を達成していない ー(履修放棄):一度も出席せず、かつ一度も演習や課題に解答せず、かつ期末レポートを提出していない |
| 教科書 Textbooks/Readings | ダイアナ・キャンダー『STARTUP(スタートアップ):アイデアから利益を生み出す組織マネジメント』新潮社(2017年) |
| 参考書 Course material | 講義で適宜紹介の予定 |
| 授業計画 Class plan | 1 ガイダンス 2 ゲストスピーカー 3 キャリアとは？自分を振り返りながら将来を考える 4 強み分析 5 リスクと不確実性 6 認知科学と想像力 7 アイデア創出 8 起業のプロセス(1) 9 起業のプロセス(2) 10 起業のプロセス(3) 11 イノベーションと起業 12 マーケティング 13 美術館演習 14 総括 15 期末試験 |
| 教職課程 Teacher-training course | |
| 備考 Remarks | |
| 998655H | |

2018/03/09(金)08:37

| | | | |
|--------------------------------------|---|-----------------------------|----|
| 科目名称 Course title(Japanese) | アントレプレナーシップ入門 | | |
| 科目名称(英語) Course title(English) | Introduction to Entrepreneurship | | |
| 授業名称 Class name | アントレプレナーシップ入門(旧:アントレプレナーシップ概論) | | |
| 教員名 Instructor | 牧野 恵美 | | |
| 開講年度学期 Year/Semester | 2018年度 前期 | | |
| 曜日時限 Class hours | 月曜4限 | | |
| 開講学科 Department | 経営学部 経営学科 | | |
| 単位 Course credit | 2.0 | 学年 Grade | 1年 |
| 科目区分 Course category | 関連専門基礎 | 履修形態 Compulsory/Elective | 必修 |
| 概要 Descriptions | 競争が激しいグローバル社会では、分野や職種に限らず、アントレプレナーシップを発揮できる人財が求められています。経営学を学ぶために入学した理科大経営学部生にとって、アントレプレナーシップは馴染みのない概念かもしれません。アントレプレナーシップは日本語で「起業」と呼ばれることが多いのですが、必ずしも新規ビジネスを立ち上げることだけを指すわけではありません。本講義は、グループワーク、演習、DVD学習などを通じて、アントレプレナーシップを身近なものにとらえます。 | | |
| 目的 Objectives | アントレプレナーシップについて履修者が自らの価値観や志に照らし合わせて考察することを目的としています。 | | |
| 到達目標 Goals | 1) グループで議論する能力をつける 2) アイデアを出して、提案できる 3) アントレプレナーシップについて自分の言葉で説明できる 4) 自分の強みを認識できる 5) 起業家の思考・行動プロセスを説明できる | | |
| 履修上の注意 Course notes prerequisites | 本講義はグループワークをはじめとした演習が多いため、出席と積極的な参加を重視します。従って、授業にただ出席しているだけでは、貢献とはみなさず、状況によっては貢献点を大幅に減点することもありますのでご注意ください。 また、一部、キャンパス外でのフィールドワークへの参加が求められます。4回以上の欠席は、原則として不可(D評価)とします。 | | |
| 準備学習・復習 Preparation and review | ほぼ毎週、事前課題を設定しているため、週1時間程度の準備学習が必要です | | |
| 成績評価方法 Performance grading policy | 授業への貢献 40% 事前・事後課題・小テスト 30% 美術館レポート 10% 期末テスト 20% 以下の(1)(2)の条件を全て満たす学生は、単位取得不合格(D評価)の場合、再試験を受験することができる。 (1)総合得点が50点以上であること。 (2)講義への出席率が80%以上であること。なお、開始20分以内にカードリーダーで手続きした者のみ「出席」扱いとする。 | | |
| | S: 到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている A: 到達目標を十分に達成している | | |

| | |
|--|--|
| 成績評価基準 Performance grading criteria | B:到達目標を達成している C:到達目標を最低限達成している D:到達目標を達成していない ー(履修放棄):一度も出席せず、かつ一度も演習や課題に解答せず、かつ期末レポートを提出していない |
| 教科書 Textbooks/Readings | ダイアナ・キャンダー『STARTUP(スタートアップ):アイデアから利益を生み出す組織マネジメント』新潮社(2017年) |
| 参考書 Course material | 講義で適宜紹介の予定 |
| 授業計画 Class plan | 1 ガイダンス 2 ゲストスピーカー 3 キャリアとは?自分を振り返りながら将来を考える 4 強み分析 5 リスクと不確実性 6 認知科学と想像力 7 アイデア創出 8 起業のプロセス(1) 9 起業のプロセス(2) 10 起業のプロセス(3) 11 イノベーションと起業 12 マーケティング 13 美術館演習 14 総括 15 期末試験 |
| 教職課程 Teacher-training course | |
| 備考 Remarks | |
| 9986551 | |

2018/03/09(金)08:59

| | | | |
|--------------------------------------|--|-----------------------------|-------|
| 科目名称 Course title(Japanese) | 地域連携論1 | | |
| 科目名称(英語) Course title(English) | Community Collaboration I | | |
| 授業名称 Class name | 地域連携論1 | | |
| 教員名 Instructor | 榎本 のぞみ | | |
| 開講年度学期 Year/Semester | 2018年度 前期 | | |
| 曜日時限 Class hours | 木曜3限 | | |
| 開講学科 Department | 経営学部 | | |
| 単位 Course credit | 2.0 | 学年 Grade | 1～4年生 |
| 科目区分 Course category | 一般教養科目 キャリア形成を学ぶ科目群 | 履修形態 Compulsory/Elective | 選択 |
| 概要 Descriptions | <p><概要> 環境、エネルギー、産業、雇用など、国や地域が抱える課題解決のために、産官学ならびにあらゆる団体のヨコの連携をとって事業環境整備や地域再生の取り組みが世界各地で展開されている。 持続可能な地域社会は、地域に技術や資源が存在するだけでは実現せず、それらを活かして機能させる人とのネットワークと信頼関係の構築、関係者相互の価値観の共有がカギとなる。地域連携論1・2はともに、これら社会の信頼関係、規範、ネットワークといった社会組織を重視するソーシャル・キャピタルの考え方をベースに、特に地域連携論1では、以下の、3部から構成され、よりコミュニティを総合的視点で分析するのに対し、</p> <p>1)一定期間で多くの成果を上げたドイツの地域再生戦略 2)ポールポラック提唱の貧困解決方法の普遍性と特殊性 3)ケースから学ぶシミュレーション</p> <p>後期地域連携論2では、より企業と大学を中心とした地域連携の取り組みや社会起業を中心に学ぶ。</p> | | |
| 目的 Objectives | <p><目的> 地域再生や振興の事例を通して、地域連携のあり方を学び、実際に地域が抱える課題解決に役立つ知識・ノウハウを修得し、国内外の自然・人間・社会を広く俯瞰できる能力を養うことを目的とする。</p> | | |
| 到達目標 Goals | <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状を理解し、ポテンシャルを発掘する課題発見力を身につけ、実行に移す準備ができる。 ・地域の課題解決方法に関する創造的思考力を身につけ、実行に移せる準備ができる。 ・地域の産官学の連携では、信頼や協力関係構築の重要性について理解できる。 | | |
| 履修上の注意 Course notes prerequisites | | | |
| 準備学習・復習 Preparation and review | <ul style="list-style-type: none"> ・毎週、所定の範囲の資料を読んで、授業に臨む。 ・シミュレーションを行う週は、事前の課題が出される。 | | |
| | <p>レポート 25% プレゼンテーション25%</p> | | |

| | |
|--|--|
| 成績評価方法 Performance grading policy | 予習・準備 25% 授業参加度 25% 注1)成績評価は、出席7割以上を対象とする。 注2)5分以上を遅刻とし、遅刻3回で1回の欠席となる。 (富士見校舎から移動する人もいるので、厳格にはできないが、良識の範囲でと考える) 注3)30分以上の遅刻は欠席扱い(遅延照明がある場合を除く)。 注4)出席5回以下は、履修放棄とみなす。 |
| 成績評価基準 Performance grading criteria | S:到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている A:到達目標を十分に達成している B:到達目標を達成している C:到達目標を最低限達成している D:到達目標を達成していない |
| 教科書 Textbooks/Readings | 『ドイツの地域再生戦略ーコミュニティマネジメント』 室田 昌子著、学芸出版社 Out of Poverty, Paul Polak 邦訳『世界一大きな問題のシンプルな解き方ー私が貧困解決の現場で学んだこと』ポールポラック著・東方雅美 訳、英治出版 |
| 参考書 Course material | |
| 授業計画 Class plan | 1. ドイツの地域連携:構図 2. ドイツの地域が抱える問題とその特徴 3. ドイツの地域再生:ミッション・戦略・アプローチ 4. ドイツの地域連携:主体・体制・オペレーション 5. ドイツの地域再生プロジェクト事例と内容 6. 問題解決 Out of Poverty に学ぶ1 地域の現状分析 7. 問題解決 Out of Poverty に学ぶ2 地域の問題と可能性 8. 問題解決 Out of Poverty に学ぶ3 ミッションと課題解決実現に向けての方法論 9. 考察1 問題の特定とそれに作用する諸要因 10. 考察2 可能・強みの特定とそれに作用する諸要因 11. シミュレーション1 対象地域の選定 12. シミュレーション2 対象地域の現状分析・問題の特定 13. シミュレーション3 ミッションと実現に向けての方法論 14. 継続性・持続可能性のために 15. プレゼンテーション、まとめ |
| 教職課程 Teacher-training course | |
| 備考 Remarks | オフィスアワー: 水曜 12:50 - 14:20 |
| 9986231 | |

2018/03/09(金)09:00

| | | | |
|--------------------------------------|--|-----------------------------|-------------------|
| 科目名称 Course title(Japanese) | 企業連携論 | | |
| 科目名称(英語) Course title(English) | Project with Business Enterprises | | |
| 授業名称 Class name | 企業連携論 | | |
| 教員名 Instructor | 榎本 のぞみ | | |
| 開講年度学期 Year/Semester | 2018年度 前期 | | |
| 曜日時限 Class hours | 金曜1限 | | |
| 開講学科 Department | 経営学部 | | |
| 単位 Course credit | 2.0 | 学年 Grade | 1～4学年(2年生以上が望ましい) |
| 科目区分 Course category | 一般教養科目 キャリア形成を学ぶ科目群 | 履修形態 Compulsory/Elective | 選択 |
| 概要 Descriptions | <p><概要> 業種や規模の異なる企業の経営課題に取り組む課題解決型学習。 受講生は、企業から与えられた課題について、環境、IT、農業、エネルギー、テクノロジー他、多岐にわたる分野からのアプローチを検討し、グループワークを通して、解決を見出す。 例年共通テーマが設けられ(H25年度「成長戦略」、H26年度「新規事業(または新規市場開拓)」H27年度以降はイノベーションをテーマとして課題に取り組んでいる。 今期前半は、最大規模のクラウドファンディングのプラットフォームを有するCAMPFIRE、後半は、メカニカル部品の専門商社を中核とするミスミグループ本社と連携して課題に取り組む。</p> | | |
| 目的 Objectives | <p><目的> 1. 業種・規模・展開が異なる複数の企業と連携し、現実の経営課題に取り組むことで、課題解決力・価値創造力を養う 2. 実現可能性・実行可能性を追求し、タイムマネジメント、論理思考、コミュニケーション、プロジェクトマネジメント、クリエイティビティ、チームワーク、分析、情報収集などのスキルを習得する 3. 業界の現実の課題への関心に向け、学問的知識とのリンケージを促す 4. 1)自然・人間・社会を幅広く俯瞰できる能力、2)論理的・批判的思考力、3)コミュニケーション能力、4)自己管理能力、の涵養に資する</p> | | |
| 到達目標 Goals | <p><到達目標> 1)ブランディング、商品開発、マーケティング、CSR他、広報、マーケティング、IR、CSR、人事、新規事業、ステークホルダーマネジメントなどの業務や組織的機能への関心が高まり、専門知識を習得するモチベーションが向上する。 2. 必要な知識・情報を組み合わせ、提案の実現可能性に向けて課題解決方法を工夫することができる。</p> | | |
| 履修上の注意 Course notes prerequisites | <p>1. 企業と連携し、チームワークを通して課題を進めるため、全出席・無遅刻を前提とする。 2. 科目の性質上、2年生以上の履修が望ましい。 3. ノートパソコンを必要とする週がある。事前に知らせるので準備すること。 4. 授業時間内で企業を訪問する場合、交通費は自費(最大往復400円1回と340円1回)。 5. 履修者30名程度を極端に超える場合は、2年生以上を優先する可能性がある。 6. アカウント設定等の関係上、履修の意思を第1週目で確認する(特に履修を取り消す場合において)。</p> | | |

| | |
|--|---|
| 準備学習・復習 Preparation and review | 各社から提示された課題について、所定の期限内にしっかりとした提案を作り上げるために、時間外の効率的・効果的タイムマネジメント力も要求される。 |
| 成績評価方法 Performance grading policy | <ul style="list-style-type: none"> ・企業側からの評価 50% ・授業(ディスカッション)参加度15% ・成果物 20% ・チームワークとチームへの貢献15% 計100% <注>CAMPFIREの課題は、企画を掲載し、クラウドファンディングを経験することを評価の条件とする。 |
| 成績評価基準 Performance grading criteria | S:到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている A:到達目標を十分に達成している B:到達目標を達成している C:到達目標を最低限達成している D:到達目標を達成していない |
| 教科書 Textbooks/Readings | 特になし |
| 参考書 Course material | 随時提示 |
| | <p>【授業計画(案)】</p> <p>※企業とともに、課題検討の後、内容は変わる可能性があるが、事授業開始時には、詳細なプログラムが用意される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・企業説明 ・課題説明 ・授業スケジュール ・PBLについて ・チーム編成 ・課題提出期限までのプランニング ・問題・課題についての原因・仮説ブレスト ・次回調べて発表する内容と担当者の確認 2. 課題の背景と導入 クラウドサービス「kintone」の理解、演習 3. 現状分析と解決策構想① (問題解決メソッド) <ul style="list-style-type: none"> ・課題関連情報の分析 ・課題の本質理解 ・問題・課題解決の方策構想 ・次回までの課題・役割分担確認 4. 現状分析と解決策構想① (問題解決メソッド) <ul style="list-style-type: none"> ・課題関連情報の分析 ・課題の本質理解 ・問題・課題解決の方策構想 ・次回までの課題・役割分担確認 5. 中間発表&フィードバック 5 フィードバックに基づく再考 <ul style="list-style-type: none"> ・実現可能性の検討 ・軌道修正 ・発表準備 |

| | |
|---------------------------------|---|
| 授業計画 Class plan | <ul style="list-style-type: none"> •ロジックの確認 •次回までの課題確認 ワーク(プレゼン資料仕上げ、kintone作りこみ) <p>6. プレゼンテーション&フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> •チームごとのプレゼンテーション •Q&A •評価 •今後の課題 <p>振り返り</p> <p>8. 企業・課題の理解(課題B)</p> <p>クラウドファンディングとは</p> <p>9. グループ編成・企画立案から終了までの流れ</p> <p>10. プロジェクトを成功させるためのテクニック</p> <p>11. 進捗状況確認</p> <p>12. 次回までの課題・役割分担確認</p> <p>11. 中間発表</p> <ul style="list-style-type: none"> •チーム毎の中間発表・フィードバック •フィードバックに基づく再検討 •次回までの課題確認 <p>12. 企画の確認と再考</p> <ul style="list-style-type: none"> •実現可能性の検討 •軌道修正 •次回の課題確認 <p>13. 成果発表と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> •チームごとのプレゼンテーション •Q&A •評価 •今後の課題 <p>振り返り</p> <p>14. ディスカッション</p> <p>15. まとめ</p> |
| 教職課程 Teacher-training course | |
| 備考 Remarks | オフィスアワー: 水曜 12:50 - 14:20 |
| 9986233 | |